令和 3 年 12 月 20 日

修成建設専門学校
校長　堤下 隆司　様

学校関係者評価委員会
委員長　藤田 晴樹

学校関係者評価委員会報告

令和 2 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 評価者

令和 3 年度 学校法人修成学園 学校関係者評価委員

委員名簿（敬称略・順序不同）	
鈴木 邦彦	株式会社冨島建設　専務取締役管理部長
土井 啓安	在校生 保護者
丸山 徹	卒業生 保護者
森本 起三子	修成学園 評議員
相賀 勝	元吹田市理事
大槻 憲章	NPO 法人 おおさか緑と樹木の診断協会 理事長
大和 正	学校法人興國学園 興國高等学校　渉外顧問統括　校務運営委員長
田中 文雄	大和田振興町内会 会長
藤田 晴樹	株式会社ジェイネット 代表取締役

2. 評価期間

令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日

3. 委員会の開催状況

第一回委員会　令和 3 年 10 月 12 日（会場　修成建設専門学校 161 教室）
第二回委員会　令和 4 年 2 月 8 日（会場　修成建設専門学校 161 教室・実施予定）

4. 学校関係者評価委員会報告

令和３年８月８日に開催された委員会において、修成学園山下理事長、堤下学校長、さらに各学科長より、令和２年度の業務について自己評価報告書に基づき報告を受け、評価内容の確認を行った。 また委員各自が、自己評価報告書に示されている評価項目に対し「自己評価結果」「改善に向けた取り組み」「今後の改善方策」について採点(4 点満点)を行い、その結果を示した。 さらに、委員各位からの意見をとりまとめ報告書とする。

5. 採点結果(平均値)

調査項目	自己評価結果	改善に向けた取り組み	今後の改善方策
基準１（教育理念・目的・育成人材像）	4.00	4.00	4.00
基準２（学校運営）	4.00	4.00	4.00
基準３（教育活動）	4.00	3.67	4.00
基準４（修学成果）	4.00	3.67	4.00
基準５（学生支援）	4.00	4.00	4.00
基準６（教育環境）	4.00	4.00	4.00
基準７（学生の募集と受け入れ）	4.00	4.00	4.00
基準８（財務）	4.00	4.00	4.00
基準９（法令等の遵守）	4.00	4.00	4.00
基準 10(社会貢献)	3.88	3.67	3.67
総計	3.99	3.90	3.97

6. 意見

気が付いた２点を挙げます。一つは、環境に関してですが、SDGｓに関しても取り組んでおられるので非常に結構だと思います。すでに始められているか分かりませんが、国土強靭化や国交省等が唱えているグリーンインフラなどに関することも授業に取り入れていくのが必要ではないかと思います。もう一つは、和歌山の水管橋の崩落等にみられるインフラの老朽化やそれに対する対策、長寿命化等について、設計や施工の確実性だけでなく、保守やメンテナンスを考慮するような授業内容も必要ではないかと思います。

財務系でコロナに関してコメントが無かったですが、大丈夫だったのでしょうか。予定外の出費があったと思いますが、少し気になりました。

年毎に各報告基準内容が進化しているように感じています。特に本年度は新型コロナウィルスと言う教育の場にとって大打撃を受ける中、最善の施策で学校運営をされたのではないでしょうか。また学生の皆様にとっては対面授業のみならず、検定試験が中止になるなどの試練もあり、彼らのモチベーションをしっかり支えて頂いた教職員の皆様に敬意を表します。自己採点では厳しく向かい合われている項目もありますがこの状況下でのベストに近しいと評価させていただきました。
入学希望者の確保、学修成果、進学就職、そして就職後の状況など多角的で多様性のある教育活動を更に進化させて頂く事を引き続きお願い申し上げます。また、毎年の課題であります優秀な教員の採用については充足を目指して努力をお願い申し上げます。
社会からの修成へのニーズこそが評価ではないかと思います。

コロナ禍でのリモートやオンデマンドの活用など大変なご苦労の中、学習成果を見ながら柔軟に工夫を重ねられ、就職率も高く維持されていて成果を上げられていると思います。
社会での卒業生の活躍が今後の学園評価や学生募集にも繋がって行くと思いますので、これまで実行されてきておりますように、卒業生が社会や企業内で重要な人材となり一段と活躍できるよう、より高い知識と技術の習得、それらを活かす総合的実践力ある人材育成を一層期待しております。

コロナ禍での学校運営は大変だったと思います。新しいカリキュラムの導入、ＷＥＢ授業、実習場の確保など引続き学生が興味をわく授業の取入れをお願い致します。

コロナ禍の下、学校運営並びに学校行事・授業など大きく影響を受けて来られ、またその対応に追われた１年間であったと思います。その中でも、ICT 機器を駆使されて、学生の皆さんに対応された結果、コロナ関連での中途退学が 0 というご報告に畏敬の念を感じられずにはいられません。さて、学校自己評価報告につきまして、管理者会議を設定されコロナ禍の中、迅速に対応された点は素晴らしい事かと思います。また、各学科からも教育活動や学修成果などを主担者よりご説明頂き、しっかりとサポートされて来た事が、就職先の企業

からも高い評価を受けているという事をお聞きし、大きなセールスポイントであると感じております。

前から申し上げておりました「就職のミスマッチを無くす。」、つまりインターンシップを就職先の企業様で実施すればミスマッチを減らせる 1 つの方策であると、ここはしっかりと学校挙げて努力、指導を重ねて来られた成果が離職率減に繋がり、御校の社会的信頼度がますます増幅されると考えております。

大変先が見にくい社会情勢ではございますが、学校挙げての学生獲得や徹底したサポート体制が、より一層大切になるかと思いますので、修成学園の皆様の一致団結が、学園の未来永劫の繁栄に繋がると信じております。

働きながら資格を取得したいという事を多く聞く中、本校でも 2022 年度（第 2 本科（夜）建築学科）入学者が増えることも考え、専門科目の教員の増員を前向きに検討され、教育の充実を図ってはいかがか。

以上